

**県内における高等教育環境の魅力発信業務
公募型プロポーザル選定委員会（第一次審査）議事録（議事要旨）**

項 目		内 容
1	日 時	令和8年7月7日9時00分から7月8日12時00分まで
2	出席委員	総務局経営企画チーム若者減少対策担当監 総務局広報課クリエイティブ・ディレクター 地域政策局都市圏魅力づくり推進課長 環境県民局環境県民総務課長 環境県民局高等教育担当課長
3	議 題	県内における高等教育環境の魅力発信業務委託事業者の選定に係る第一次審査
4	提案者	株式会社 wolfram A
		東光印刷株式会社 B
		株式会社アスコン C
		株式会社中国新聞社 D
		株式会社織 E
		株式会社 FRASCO F
		株式会社ニューズコム G
		株式会社さとゆめ H
		株式会社広島朝日広告社 I
5	担当部署	環境県民局高等教育担当
6	開催方法	1 参集（ハイブリット） 2 持ち回り
7	議事要旨	提出された企画提案書をもとに、選定委員会において書面審査を行い、A社、B社、D社、H社の4者が第一次審査を通過した。 各委員の主な評価については、次のとおりである。

【各委員の主な評価（第一次審査）】

A	○表紙や学生インタビューにおける楽しい紙面づくりのコンセプトが魅力的。 ○独自ネットワークを活用した学生への取材を計画されており、多様な学生へのアプローチが期待できる。 ○経験豊富な制作スタッフが配置されている。
B	○「広がれ！学びの視点」の中で、学び・進路に加えて、部活やスポーツ観戦などの学生生活にも結び付けており、より共感を得られるものと評価できる。 ○自社アンケート調査や現状紙面の改善提案からの基本方針の説明には、説得力がある。 ○留学や奨学金、Q&Aなど多彩な追加コンテンツが提案されている。
C	○県内進学の実情を訴えかけるために、どのような内容を盛り込むのかが、分かりにくいと感じた。 ○コンテンツ内容は広島での人生設計についてのメリットを感じられる良い構成になっているが、デザイン例からそれを感じる事が出来なかった。 ○具体的な取材人数・大学数が提案されていない。

D	○近隣県の高校生等にも刺さるプロモーション媒体として位置付け、独自のコンセプトが評価できる。 ○取材力に強みがあり、充実した記事に期待ができる印象を受けた。 ○高校生と保護者の両方に訴えかける明確な目的を持って、工夫された内容となっている。
E	○中面中央に大学マップを配置している点がとてもユニークでページ構成が評価できる。 ○ゴールイメージに、友人・保護者・先生との進路の会話を生み出すコンセプトがよく、ターゲットである保護者を意識できている。 ○対象が県内寄りになっており、県外高校生に向けた訴求への考慮が薄い。
F	○オープンキャンパスの場での QR コードを活用した独自アンケートなど、高校生のニーズを把握できるものと評価できる。 ○観光関係のプロモーションや冊子作成の得意分野を活かした追加コンテンツは興味深い。 ○取材対象者とのコネクションの有無や取材方法の具体性が提案書の情報だけでは把握しにくい。
G	○目的の理解や分析が優れていると感じた。 ○特定の大学に偏らないコンテンツづくりは、県内大学の多様な魅力発信に資すると感じた。 ○本業務の課題で記載のあった「やりたい事が明確になっていない」層への訴求がもっと欲しいと感じた。
H	○学生インタビューなど、分野別に大学間のバランスを見て構成させており、また、学生サークル等の紹介を通じて楽しい学生生活を送るイメージや、広島で働く先輩の声を通じて、卒業後のキャリアのイメージ情報を図る点が評価できる。 ○事前マーケティングと仮説設定をすることにより、効果的なコンテンツ作成が期待できると感じた。
I	○表紙のインパクトと独創性で手に取ってみたいくなる可能性を感じた。 ○特定のアイドルをナビゲーターとすることで本当に「読まれる」冊子になるのか不安を感じる。 ○大学生インタビューも3名にしっかりとインタビューをすることになっているが、様々な大学や学部・専攻がある中で、どの大学（分野）の大学生に焦点を当てるのか、考え方を提案書に含んで欲しかった。

**県内における高等教育環境の魅力発信業務
公募型プロポーザル選定委員会（第二次審査(最終審査)）議事録（議事要旨）**

項 目		内 容
1	日 時	令和8年7月10日13時30分から16時30分まで
2	出席委員	総務局経営企画チーム若者減少対策担当監 総務局広報課クリエイティブ・ディレクター 地域政策局都市圏魅力づくり推進課長 環境県民局環境県民総務課長 環境県民局高等教育担当課長
3	議 題	県内における高等教育環境の魅力発信業務委託事業者の選定に係る第二次審査
4	提案者	株式会社 wolfram A
		東光印刷株式会社 B
		株式会社中国新聞社 D
		株式会社さとゆめ H
5	担当部署	環境県民局高等教育担当
6	開催方法	1 参集（ハイブリット） 2 持ち回り
7	議事要旨	提出された企画提案書をもとに、提案者がプレゼンテーションを行い、選定委員会において審査の上、最優秀提案者として株式会社 wolfram を選定した。 各委員の主な評価については、次のとおりである。

【各委員の主な評価（第二次審査(最終審査)）】

A	○高校生への訴求力を意識して、表紙のデザインや、リアルや親近感を持たせる内容等の工夫が盛り込まれている。 ○インタビュー対象者が広島県内の多くの大学を網羅しており、全体構成、デザインなど見やすく・分かりやすく構成されている。 ○学生の本音を引き出すインタビューを行うことができるよう、経験豊富なインタビュアーによる体制とされており、表面的ではない学生の思いを引き出すことが期待でき、評価できる。
B	○独自の学生ネットワークによるアンケートの分析に基づき現状を踏まえた方針を決定している点は高く評価できる。 ○中面での広島県で学びについての構成・演出は良いと感じた。 ○学び、生活など、紙面構成のバランスがとれており、多視点からの魅力発信が期待できると感じる。
D	○高校生と保護者の両方に訴えかける明確な目的を持って、工夫された内容となっている。 ○取材力に強みがあり、充実した記事に期待ができる印象を受けた。 ○中面デザインも明るく見やすいものとなっている。
H	○提案書では仮説もしっかりと立てられ、広島県内すべての大学の学生・情報を記載されており、全体構成も良いと感じた。 ○表紙デザインにおいて、高校生への訴求力に不安を感じる。 ○実行体制と実績から計画の実行性に懸念を感じる部分がある。